SHINKOTONI JUNIOR HIGH SCHOOL SHINKOTONI JUNIOR HIGH SCHOOL SHINKOTONI JUNIOR HIGH SCHOOL

躍進

新琴似中学校 学校だより

令和８年度 第８号

令和８年１１月２日

最高学年の誇りを胸に、未来へ羽ばたく子どもたち

３学年　副主任

黄金色に色づく街路樹に秋の深まりを感じる季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動、そして３学年の教育活動に温かいご理解と多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

早くも中学校生活が残り半年を切り、先日、中学校最後となる体育大会と新成祭が無事に終了いたしました。

体育大会では、運動が苦手な生徒もいる中で、全員で楽しみながら練習を重ねる姿がとても印象的でした。当日の準備や片付けで率先して動く様子、他学級や他学年の競技を声を枯らして応援する姿、そして仲間の失敗を励まし、全力で悔しがり、全力で喜ぶ姿など、随所に最上級生としての頼もしさを見ることができました。

また、新成祭では「最高学年らしい作品を」というプレッシャーの中、生徒たち自身が内容を考え、計画を立てながら、自分たちの力で完成を目指して準備を進めました。その姿を見つめながら、入学した頃のあどけなかった姿を思い出し、本当に逞しくなったと感慨深く見守っております。

私たちは入学時から一貫して、生徒たちの将来を見据え、義務教育最後の３年間で社会に求められる『人間力』を身につけてほしいという願いを持って指導に当たってまいりました。１年目の『聞く（聴く）姿勢』、２年目の『伝える力』をベースに、３年目である今、自ら主体的に『考えて行動する力』が大きな花を咲かせていることを、日々の姿から強く実感しています。

生徒たちは今、２学期最後の大きな行事である「合唱発表会」に向けて練習を進めています。今年度から新たに始まるこの発表会は、３年生にとっても後輩たちと同様に初めて経験する行事です。手探りの状態でありながらも最高学年としての高いクオリティを求められるという、非常に高い壁に挑むことになります。ですが、これまでの行事や日常生活で見せてくれた「全力で楽しみ、取り組み、仲間を思いやる姿」があれば、最高学年の誇りを胸に、きっとこの壁も乗り越えてくれると信じています。

最後になりますが、３学年の教育をいつも温かく支えてくださるご家庭や地域の皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

５か月後には『第８０回記念卒業証書授与式』を迎えます。多くの人々に支えられながら立派に成長した生徒たちが、その先の未来へ、社会を担う一人として自信を持って羽ばたけるよう、学年職員一丸となって最後まで全力で支えてまいります。今後とも変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



～新成祭を振り返って　～　（各学年の生徒作文紹介）

「新成祭を終えて」　１学年生徒

私にとって人生初の新成祭では、たくさんのことを経験し、新たな学びや力を得ることができました。

教室展示を担当して得た力は、「人々を感動させ、ワクワクさせる力」です。教室の外壁やドアを飾り付ける仕事をしたのですが、どうすればみんなが入ってくれるのか、作品を見て「クオリティ高いね、すごい」といった感想をどうしたら言ってもらえるかなど、様々な工夫を考えながら作ることができました。

パフォーマンスや演劇を見ていて、一つひとつのていねいさにとても感動しました。セリフを忘れたり止まったりすることもほぼなく、みんな元気よく、全力で取り組む姿がとてもかっこよかったです!!

最後に、吹奏楽部の演奏では、完璧ではないものの、会場全体を盛り上げることができました。

そこで得た力は、「みんなと協力して、一つのものをつくりあげる」という力です!!個人個人が好きなように演奏していては何のまとまりもなく、面白くない発表になってしまうため、団結し、心を一つにして精いっぱいがんばることで良い演奏になりました。

ここで得た力を、今後の合唱発表会やいろいろな活動に、おおいに活かしていきたいです!

「２度目の新成祭を終えて」　２学年生徒

私は開発式部門で役者を担当しました。去年は同じ部門で音響をやっていたので「ステージに立ってうまく話せるか、不安でいっぱいでした。しかしなんとか無事に終えることができました。それは３年生の大きな力があったからだと思っています。役者チームでも裏方チームでも３年生が前線に立って指示してくれたり、先生に相談してくれたりしました。自分のことだけでなく、周囲にも気を配って私たち後輩を引っ張ってくれました。

ある日、通し練習が全員に伝わっておらず、また私語が多くて予定よりも10分以上遅れてしまったときがありました。そのときも ３年生が中心となって「そろそろやろう!」と周りに声をかけてくれました。自分はただただ時計を見てやらなきゃと焦っているだけでした。振り返ってみると自分は先輩に甘えすぎてしまったと思っています。自分のことばかりで他人任せにしていた部分が多かったです。

開祭式部門の先輩たちのようになるためには冷静に判断できるようになることが大切だと思います。そのためには状況整理をおこたらずにわからないことをそのままにせずに行動することが大切です。日常生活でも「後でもいいか」と後回しにしてしまうことが多いので気をつけたいと思います。また、自主的に行動ができるようにこれからは「誰か〇〇やって」と言われたときに真っ先に手を挙げるようにしたいです。そして限られた時間をむだにしないで過ごしていきたいです。

新成祭が終わり、いよいよ先輩に頼らずに活動していかなければなりません。そして来年の新成祭は自分にとって最後の新成祭です。後悔なく終われるように来年までに大きくパワーアップできるようにしたいです。



「最高の新成祭」

３学年生徒

私は最高学年として取り組む新成祭を、今までで一番最高なものにし、最高な思い出をつくる気で活動を始めた。３年パフォーマンス部門は元気な人ばかりで、みんなが自分と同じように考えているように感じ、より一層新成祭が楽しみになった。

一方この元気な集団は良い方向に進む可能性もあるが、悪い方向に進んでしまい、最高の思い出は作れないのではないかとも感じた。そこで自分の役割は元気でやる気のある人たちを１つにまとめ、この元気な人達を『集団』ではなく『チーム』にしたいと思い、練習もまずは自分から挑戦し、最高のチームを引っ張れるようなリーダーを目指して努力した。また自分だけが先走らないように、たくさんの人とコミュニケーションをとって、みんなで上を目指す雰囲気を作っていった。しかし、やる気があるからこその揉め事や、計画通りに進まないなどのトラブルも起きてしまった。その時に、このチームはお互いに協力して、トラブルをチャンスに変え、最高のパフォーマンスを作ることができた。

このような体験は簡単にできることではなく、メンバーのおかげでできたことなので、感謝を忘れずに生活していきたい。『楽しかった』というその場の感想で終わらせず、これからの受験や高校、大人になったときにも、様々な悩みに出会ったときにこの経験は絶対に役に立つので、その時はこのパフォーマンスを思い出し、自分を勇気づけたい。



令和８年度　新成祭シンボルマーク

